

個別の教育支援計画について

11月半ばに雪が積もり、外はすっかり冬模様となりました。そして、今日の日付を見て「あと1ヵ月で2019年も終わり？」と思われる方々もいらっしゃると思います。

学校は3月で1年間が終わりますが、今回は、少しずつ年度末の足音が聞こえてきたこの時期、お子さんの次年度を考える参考にさせていただきたく、『個別の教育支援計画』について書かせていただきます。

さて、以前の『射雲』でも各機関との連携に『個別の教育支援計画』の活用を…と書きましたが、今回は「支援目標」について書かせていただきます。

「支援目標」には、支援機関がどのように支援を進めていくかが記載されます。支援機関にはご家庭はもちろん日頃利用しているサービス、医療機関等も含まれ、学校もその一つになります。そこで「支援目標」を考えるにあたって、大切にしていきたいことを二つ述べさせていただきます。

～お子さんの願いを大切に～

『個別の教育支援計画』は各機関をつなぐ連携ツールであると同時に、小学部⇒中学部⇒高等部⇒社会…と時系列でお子さんの支援をつなぐツールでもあります。お子さんの“願い”を見据え、その実現のために何ができるのか？を考えることは、現在から将来につながるお子さんの“自己実現”や“生き方”への支援を考えることにつながります。『個別の教育支援計画』を見直すとき、ぜひ、この“願い”に立ち返り、お子さんの将来を見つめ、支援を検討していけたら…と思います。

～支援機関との連携を～

学校も各機関での支援の内容や目標を把握し、計画に反映させていく必要があります。方法の一つに、各機関が一堂に集まり、それぞれの機関での支援内容や目標を共通理解する「支援会議」があります。支援者同士が“顔の見えるつながり”のもと、より連携が図りやすくなる場所にも開催の意義があると感じています。また、支援会議を開催しない場合も、各機関で作成している『支援計画』（サービス等利用計画・障がい児支援計画／個別支援計画／リハビリ実施計画等）によって共通理解を図ることができます。学校での支援を考える参考になりますので、新しいサービスを利用し始めたり、計画が更新されたときには、ぜひとも教えていただき、お願いいたします。巻頭言

『個別の教育支援計画』には、お子さんの基本的な情報はもちろん、そこにはお子さんや保護者のみな様の願いが込められています。お子さんのことを語るツールとして、ぜひとも積極的にご活用ください。

（支援相談部 稲葉 麻佐子）